

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学産業生態科学研究所
産業精神保健学研究室
TEL (093) 691-7475
FAX (093) 692-5419
発行責任者：地方会長 江口 尚

(題字：倉恒匡徳筆)

巻頭言

地方会理事として ～産業保健看護職の立場から～

長崎産業保健総合支援センター 山下 美和子



理事に就任してから、早いものでまもなく1年を迎えます。改めて、このたび理事に選任いただきました会員の皆さまに、心よりご挨拶申し上げます。

私が所属する産業保健総合支援センター（さんぼセンター）に産業保健専門職（保健師）が配置されて8年になります。治療と仕事の両立支援や小規模事業場への支援

を中心に取り組む一方で、産業保健看護職向けメルマガの配信など、情報発信にも力を注いできました。

近年の産業保健を取りまく動きですが、治療と仕事の両立支援について、2026年4月から事業者の努力義務が新たに課されることとなりました。また、ストレスチェック制度についても、50人未満事業場への義務化が今後予定されています。さんぼセンターがハブとなり、産業医や産業保健看護職など専門家を活用する重要性は今後さらに高まると考えられます。

日本産業衛生学会（本学会）が掲げる100周年を見据えたミッションのうち、基盤として示された「国内外のすべての働く人を対象とした産業衛生の推進」を前に進めるためには、地域ごとの本学会会員数と就業人口のバランスを踏まえた取り組みが、これまで以上に重要になっています。

長崎県の就業人口は約65万人であるのに対し、本学会の会員数は41名にとどまっています。会員1名あたりが担う就業人口は約1万5,900人となり、九州で最も会員数の多い福岡県（会員549名、1名あたり約4,800人）の約3.3倍に相当します。¹⁾ このように、長崎県では一人の会員が担う産業衛生活動の範囲が相対的に大きく、地域の特性に応じた支援や活動の充実が求められています。今後は、会員数を増やしていくための工夫や仕組みづくりも、取り組むべき重要な課題となっていきます。

その取り組みの一つとして、九州地方会の活動支援（助成金）を活用し、「長崎県内の産業医と産業看護職のための研修・交流会 Part1」を2026年3月14日（土）に開催することとしました。研修会では、九州地方会代議員でもある三菱重工業株式会社 HR マネジメント部 長崎 HR ビジネ

スパートナーグループ産業医の安武正矢先生に、「産業医活動の実際と産業看護職との連携」をテーマにご講演いただきます。また、参加者同士が交流できる茶話会も予定しています。最後には産業医部会と産業看護部会の活動紹介のコーナーも設けています。会場のベネックス長崎ブリックホールは、長崎スタジアムシティが徒歩圏内にある注目エリアに位置しています。皆さま方と学び、つながりを深める貴重な機会となれば幸いです。

長崎県には、産業保健看護職の研修・交流の場として1989年に発足した「健保連長崎保健師・看護師等連絡協議会」があり、現在は約20名の会員が所属しています。年2回の研修会では、減酒指導、ブリーフセラピー、睡眠や禁煙指導など、現場で役立つ実践的なテーマが多く取り上げられています。また、産業保健看護職としてのキャリア形成や個別支援スキルの向上を目的とした研修会では、本学会産業保健看護部会の活動や産業保健看護専門家制度について知る機会も提供されており、本学会への関心が高まる場にもなっています。研修会には非会員の産業保健看護職も参加しており、日頃の活動における課題共有や情報交換の貴重な機会となっています。さらに、当協議会は長崎県看護協会の保健師職能委員会において2013年に設置された「保健師ネットワーク会議」にも参画しており、県・市町・大学などの保健師活動を知ることで、分野を超えた連携の広がりにもつながっています。

今後も、さまざまな機会を通じて他機関との連携を深めながら、産業保健活動への理解促進に努めていきたいと考えています。ひいては、産業保健活動に従事する人材の確保につなげるとともに、学会活動を通じてその質の向上にも寄与できるよう取り組んでまいります。

最後になりましたが、江口地方会長をはじめ、各県理事の先生方、長崎県代議員の先生方のご指導を仰ぎつつ、微力ながら理事としての責務を果たしてまいります。引き続き、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

参考資料

- 2025年度日本産業衛生学会 九州地方会学会
江口地方会長 教育講演「地方会運営の展望：地域の特性を活かした労働者の心身の健康増進のために地方会のできるごと」

部会報告

産業医部会

池上和範

(桜十字福岡病院・株式会社 HealthCraft)



日本産業衛生学会九州産業医部会長の池上和範でございます。去る2026年2月7日、当部会・産業医学推進研究会九州地方会の共催（日本産業衛生学会九州産業技術部会後援）により「2026年合同産業保健セミナー」を挙行いたしました。事前登録では、現地会場

(TKP 博多駅筑紫口ビジネスセンター) 30名、オンライン (Zoom ウェビナー) 120名の計150名もの皆様にお申し込みいただき、産業保健関係者が一堂に会する活気ある学びの場となりました。

第一部では、労働安全衛生総合研究所の齊藤宏之先生をお招きし、「熱中症アップデート！」と題してご講演をいただきました。齊藤先生からは、近年の記録的な酷暑を踏まえた最新の熱中症対策について、学術的知見と現場実務の両面から詳述いただきました。特に、多様な熱中症対策としての休憩所の設置事例は、実務に直結する内容として非常に印象的でした。また、職場における熱中症ガイドラインやWBGT測定器の最新規格、さらにはウェアラブルデバイスを用いた心拍数等のモニタリング技術も紹介され、今後のリスク管理のあり方について深く理解することができました。

続く第二部では、産業医科大学病院に開設された全国初の「嗅覚・味覚センター」について、センター長の柴田美雅先生にご講演いただきました。柴田先生は、嗅覚や味覚が単なる感覚器にとどまらず、労働者の生活の質や職場の安全性に直結していることを、事例を交えてお話しくださいました。具体的には、化学物質へのばく露予兆やガス漏れ等の異常事態を察知するリスク管理の側面、さらには嗅覚障害がメンタルヘルスや食欲、ひいては労働意欲に及ぼす影響まで多岐にわたる解説をいただきました。COVID-19の後遺症としても関心が高まっているテーマですが、産業医学の視点から「嗅覚・味覚の管理」が持つ意義を再認識し、嗅覚リハビリテーション等の最新知見を学ぶ非常に貴重な機会となりました。

今回の合同セミナーは、熱中症という産業保健における喫緊の課題と、嗅覚・味覚という新たな領域の二本立てであり、参加された皆様からも大変好評を博しました。対面とオンラインを融合させたハイブリッド形式により、九州のみならず幅広い地域の皆様と知識を共有できたことは、当部会にとっても大きな成果です。また、プログラムの合間に設けたコーヒープレークでは、現地参加者同士で熱心

な意見交換や交流が行われ、対面開催ならではのネットワークづくりの貴重な機会となったことも大変喜ばしいことでした。

最後になりますが、ご多忙の中ご登壇いただいた齊藤先生、柴田先生、ならびにご参加いただいた皆様、円滑な運営を支えてくださった関係各位に心より御礼申し上げます。今後も九州産業医部会は、産業保健の質の向上を目指し、今日的な課題に応えるための情報発信と研鑽の場を提供してまいります。

産業保健看護部会

尾崎琴乃

(ソニーセミコンダクタソリューションズ(株))

2025年8月30日(土)にリファレンス大博多ビル貸会議室にて開催しました産業保健看護研究会についてご報告いたします。今回は、産業医科大学 医学部 両立支援科学 准教授の永田 昌子先生をお招きし「発達障害と合理的配慮」というテーマでご講演いただきました。参加者数は63名とほぼ満席に近く、参加者のうち37%が福岡県以外の九州各県、九州以外の地域よりご参加いただきました。

ご講演では、発達障害に関する基礎的な知識をはじめ、「職場における困りごと情報整理シート」を活用した現場での実践的な対応についてご教示いただき、改めて産業保健看護職としての関わり方を再確認する機会となりました。

事後アンケート(n=51)では、「大変満足」、「満足」との回答が合わせて100%、また「理解が深まったか」の設問にも100%が「理解が深まった(“やや深まった”を含む)」と回答されました。また「業務で活用できるか」の設問には98%が「活用できる(“やや活用できる”を含む)」と回答され、自由記述では「チェックシートを活用していきたい」というコメントを多数いただき、他にも「本人も周囲も当事者意識を持ちみんなで事例性で問題となっていることを解決するという事を深く理解できた」「向き合い方について整理できた」とのコメントもいただき、大変有意義な研修であったことが伺えました。



永田先生のご講義後には、九州地方会産業保健看護部会住徳部会長より、産業保健看護部会員拡大・ネットワークの強化を目的に「日本産業衛生学会 産業保健看護部会の活動について」ご紹介いただき、後半には「産業保健看護活動の見える化と共有」というテーマで参加者同士にて意見交換会を実施しました。意見交換会では、経験年数、年代を問わず和気あいあいと話し合っている姿が印象的でした。

意見交換会についての事後アンケート(n=51)では、「日頃の業務の振り返り、交流の場になったか」との設問については「とてもそう思う」「そう思う」との回答が合わせて96%、また「日頃の業務に活用できるか」の設問には、100%が「活用できる(“やや活用できる”を含む)」と回答されました。自由記述では、「他施設の方との意見交換もとても参考になりましたし、楽しく話せてよかったです」「保健師同士の交流の機会も今後も引き続き作っていただければ嬉しく思います」「普段、企業の保健師と出会う場が少ないのでネットワークが広がってよかったです、世代や業種、地域を超えて交流できて刺激になりました」と交流会に対してポジティブなご意見をいただき、また今後も交流会開催の機会を求める声も多数いただきました。

2026年1月24日(土)に開催しました第2回産業保健看護部会学術集会(会場:福岡大名ガーデンシティ・タワー)の報告については、次号の産衛九州誌にてご報告いたします。今後も専門職の皆様が効果的な産業保健活動を実践できるよう研修企画を行って参ります。皆様のご意見やご参加をお待ちしております。

産業衛生技術部会

宮内博幸

(産業医科大学 産業保健学部 作業環境計測制御学)

令和7年度九州産業衛生技術部会研修会が、令和7年11月22日に産業医科大学において約60名の参加者のもと開催されました。研修会は「働く人を産業衛生技術で支える—職場と連携した自主的安全衛生活動の推進へ—」というテーマで現地およびオンラインで開かれました。

安全衛生活動報告では「職場と連携して進める自主的安全衛生活動事例」と題し、シャボン玉石けん株式会社の宮嶋誠氏、津田知司氏から「安全衛生活動の概要」について、上野翔太郎氏から「安全衛生DX推進の取り組み」についてご講演いただきました。

「安全衛生活動の概要」としては、シャボン玉石けん株式会社は「健康な体ときれいな水を守る石けんメーカー」として地道な取り組みを続けてこられたこと、製造工程には様々な危険・有害要因が存在しており、現工場長の藤島聡氏が担当者だったころに「本気スイッチ」が入ったことが安全文化創造のターニングポイントとなり産学連携の取り組みへと発展したことや、現在では安全衛生活動水準や



安全衛生意識も一定水準に達しており、労働災害発生件数も減少が見られていることなどが紹介されました。また、産業医を務めておられる内山伸一先生からは、安全衛生委員会における活発な議論が対策につながっていることなどが報告されました。

「安全衛生DX推進の取り組み」としては、IoTを活用した熱中症対策システムや、生成AIを活用したリスク評価アプリケーション、多岐にわたる社内教育をワンストップ化したアプリケーションなど、AIと人が共同で進めるDXについて紹介され、とても示唆に富む内容でした。

続いて、安全衛生専門職からの提言として「安全衛生専門職のこれから」と題し、現場で活躍されている4名の演者より講演が行われました。

坂本敬行氏(国立大学法人熊本大学研究開発戦略本部技術部門安全管理技術WT)からは、化学物質管理支援システムを用いた一元管理と、化学安全に特化した専門巡視が効果的であるとのご紹介をいただきました。

中山彩氏((株)神戸製鋼所大安製造所総務部安全環境室)からは、多角的な事業基盤を持つ会社における衛生管理者の業務として、化学物質管理の制度変更への対応や、現場からの化学物質リスクアセスメントに関する問い合わせに的確に情報提供するための工夫について提言していただきました。

石橋洋行氏(中央労働災害防止協会中部安全衛生サービスセンター)からは、濃度基準値設定物質のクリエイションサンプルを用いたリスク評価や、個人ばく露測定の見直し等についてご紹介いただきました。

呉田香苗子氏(三井化学株式会社大阪工場健康管理室)からは、独自に構築された化学物質リスクアセスメント手法や騒音ばく露管理、呼吸用保護具のフィットテスト等について、作業者の特性を踏まえた実効性を高める手法などについて提言していただきました。

本研修会では、社員一丸となって職場と連携した自主的安全衛生活動を実践されている安全衛生活動事例や、AIをはじめ様々なシステムやツールなどの技術を駆使し、現場とのコミュニケーションを図りながら、働く人をまもるための様々な工夫をご紹介いただき大変有意義な内容でした。

産業歯科保健部会

谷口 奈央

(福岡歯科大学 口腔保健学講座)

九州地方会産業歯科保健部会では、他ブロックとは異なる特色をいかした活動の可能性を探っています。産業医科大学が地元で所在する利点を踏まえ、産業保健における多職種連携、小規模事業所労働者の健康課題、さらには国内外の動向に目を向けながら、新たな取り組みを模索しています。

まず、第2回日本産業衛生学会産業保健看護部会学術集会(2026年1月24日、福岡市、大会長:住徳 松子氏(アサヒグループジャパン株式会社))において、九州地方会産業歯科保健部会が共催として参画しました。本学術集会では、教育講演「職場の健康づくりにおける口腔の視点:口臭を入り口とした支援戦略」を担当し、私が講演を行いました。シンポジウムや一般講演への参加を通じて、保健師・看護師等の他職種による活動内容や課題を理解する機会となり、歯科と保健看護の連携の重要性を再認識する有意義な場となりました。2026年2月には、4回目となる定例研修会を、小規模事業所労働者の健康を支える産業保健総合支援センター(さんぽセンター)に焦点を当てて開催いたします。詳細については、次回の報告にてご紹介いたします。

また、2025年度第8回産業歯科支援者交流会(2026年1月25日)を、九州・福岡健康経営推進協議会と共催により開催し、大阪大学名誉教授 天野 敦雄氏を講師に迎え、「う蝕と歯周病の最新バイオロジー」と題する講演をいただきました。国民皆歯科健診に関連し、専門の内容をわかりやすく伝える講演を通じて、情報発信の重要性についても学ぶ機会となりました(写真:天野先生を囲んでの集合写真)。

一方、日本産業衛生学会産業歯科保健部会では、開業歯科医院の多くが小規模事業場に該当することに着目し、日本歯科医師会と協働して、主に開業歯科医を対象とした産業保健入門動画を制作しました。歯科クリニックにおける

メンタルヘルスをテーマとする動画2本は、日本産業衛生学会学術委員会による内容確認を経て2025年11月に完成し、日本歯科医師会のホームページに掲載されています。多くの歯科医師が産業歯科保健に関心を持つ契機となることを期待しています。現在2本の動画を公開していますが、今後も継続的に第3弾、第4弾の制作を進める予定です。

https://www.jda.or.jp/occupational_health/movie.html

2026年度の九州口腔衛生学会では、熊本大学名誉教授 加藤 貴彦氏に特別講演を依頼し、九州の歯科医療従事者に産業歯科保健に関心を深める契機としたいと考えております。第100回大会を見据え、九州から発信する産業歯科保健の取り組みを一層発展させるとともに、地域と職域をつなぐ実践の深化に貢献してまいります。



新入会した方の声

新規入会のご挨拶

下村 実紀

(NX キャッシュ・ロジスティクス株式会社
九州支店)



このたび日本産業衛生学会に入会させていただきました下村と申します。この紙面をお借りして、入会のご挨拶をさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

簡単な経歴としましては、大学卒業後看護師として病院に勤務したのち、2024年より現職に就き産業保健の世界へ足を踏み入れました。現在は産業医の先生方、先輩保健師にご助言をいただきながら、九州内に点在する複数の事業所の社員を対象として健康管理の業務に携わっています。

入社してから最も強く感じていることは、企業の中の医療専門職は病院の看護師とは異なった種類の責任を負っているということです。産業保健の対象となるのは、自分とは全く文脈が違う方々です。医療の専門家ではないことが前提であり、健康になるのではなく労働契約を果たすことを目的として集まっています。そのため、自分の考えが相手に伝わるように説明することが一層大切であり、何を目的とするかを擦り合わせておく必要があります。こういった責任を果たすために、正確かつ最新の知識を学び続けること、求められる支援を実現するための手段を多く持つことが必要であると感じています。加えて、異なる立場の人々をつなぎ、良好な関係性を保つために必要な働きかけを行うことも、役割の一つであると感じています。当会で知識のアップデートを続け、同業者の皆様と交流の機会をいただくことで、そうした資質を磨き現場から信頼される存在となることを目指しています。

現在私が担当している事業所は、1か所あたり20~60名程度の小規模拠点です。小規模なため管理監督者の声が届きやすく、個別の支援において協力を得やすいのですが、一方で、組織に対するアプローチを行うには時間や資源に偏りがあることが現状です。こういった現状に合わせながら、より健やかに働くことのできる環境づくりを実践できるよう、試行錯誤を続けてまいりたいと考えています。

最後に、年齢を重ねた労働者も元気に働き続けられる環境づくりに貢献することを、自身の目標の一つとしています。私自身、祖父母が社会の中で役割を持ち活躍する姿を見てきました。担当する事業所の高齢労働者の姿が祖父母と重なり、また、自分もそのように年齢を重ねたいと感じ日々活力をもらっています。

まだ学ぶべきことの多い立場ではありますが、学会活動を通して研鑽を重ね、産業保健の実践に真摯に向き合っていきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願申し上げます。

新入会員の自己紹介

中金 竜次

(就労支援ネットワーク ONE)



このたび日本産業衛生学会に入会いたしました、中金竜次と申します。本紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

看護師として約15年臨床に従事した後、高齢・障害・求職者雇用支援機構リワークセンター、神奈川県労働局難病患者就職サポーターとして、精神疾患や難病・慢性疾患のある方の治療と仕事の両立支援、復職支援、再就職支援に携わってまいりました。両立支援および就労支援の実践に従事してきたキャリアは15年余りとなります。神奈川県担当として実践を重ねるとともに、地域両立支援推進チームの一員として医療機関と企業をつなぐ役割を担ってまいりました。現在は「就労支援ネットワーク ONE」を主軸とし、個別支援に加え、医療・労働・企業・支援機関を横断する連携基盤の構築に取り組んでおります。

平成25年から平成31年にかけて難病患者就職サポーターを務め、その間、一億総活躍国民会議懇談会において、難病患者の就労支援の現状と課題について意見を述べる機会をいただきました。政策形成の議論に触れる中で、就労支援は現場実践の積み重ねのみならず、制度設計や雇用政策との接続を踏まえて検討する必要があると強く認識いたしました。

近年の審議会では、難病者の法定雇用率算入の方向性として、雇用率算定や障害認定の在り方に関連し、身体障害者手帳の有無に依らず、就労困難性が同等以上と考えられる者を個別に判断する仕組みの検討が示されております(厚生労働省「今後の障害者雇用促進制度の在り方に関する研究会報告書」)。医学的評価と就労機能評価をどのように整理し、現場実践へつなげていくかについて、産業衛生の実践から多くを学ばせていただきたいと考えております。

今後は産業衛生の実務的視点を取り入れながら、治療を続けながら働くことを前提とした支援モデルの精緻化を図り、実践と研究を往還させてまいりたいと存じます。未熟ではございますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願申し上げます。

新入会のご挨拶

福重真美
(熊本大学)



この度、日本産業衛生学会に入会させていただきました福重真美と申します。この場をお借りしご挨拶を申し上げます。私は、熊本大学を卒業後(看護師・保健師資格取得)、修士課程、臨床経験を経て博士課程を修了し、現在母校の熊本大学で教育・研究に携わっております。博士課程では加藤貴彦先生(熊本大学大学院公衆衛生学講座)にご指導いただき、また大森久光先生(熊本大学大学院生命科学部)にご推薦いただいたことを契機に入会致しました。

私は、健康の社会的決定要因(Social Determinants of Health, SDH)が相互に関連しながら、人々の健康や生活、長期的な転帰にどのような影響を及ぼすかに関心を持ち、研究に取り組んでいます。その背景には、集中治療の現場において、回復後も身体的・心理的・社会的影響が長期に残り、社会復帰に困難を抱えるPICS(Post Intensive Care Syndrome)の事例を多く経験してきたことがあります。人々の健康は生物学的要因のみならず、社会的要因が複合的に関与し、ライフコースを通じて形成されるものであると強く意識するようになりました。一方で、同様の社会的背景や困難な状況にあっても、回復し、自身の生活を再構築していく人がいます。修士課程では、ポジティブ心理学の視点からレジリエンスに焦点を当て、困難やストレスに直面した際の適応過程を探索しました。博士課程では、DOHaD(Developmental Origins of Health and Disease)理論に基づき、胎児期という早期環境がその後の健康転帰に及ぼす影響について研究しました。

医療の進歩により、疾病や外傷を経験したサバイバーは増加しており、健康課題を抱えながら生活を改編していくことが求められています。生産年齢人口の減少が進む我が国においては、就労世代のポジティブメンタルヘルスや、治療と就労の両立支援が重要課題です。就労を健康や回復を支えるポジティブな要因として捉え、人々の長期的な健康と生活に寄与する研究・活動に取り組んでいきたいと考えます。

2025年11月には、初めて九州地方会および看護部会に参加致しました。多様な領域の第一線でご活躍されている皆様方による活気溢れる議論に触れ、大きな刺激を受けました。今後は、学会活動を通じて産業衛生分野への理解を深め、皆様の議論に加わることができるよう精進して参ります。何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2025年11月には、初めて九州地方会および看護部会に参加致しました。多様な領域の第一線でご活躍されている皆様方による活気溢れる議論に触れ、大きな刺激を受けました。今後は、学会活動を通じて産業衛生分野への理解を深め、皆様の議論に加わることができるよう精進して参ります。何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

会員の声

第100回日本産業衛生学会
開催に寄せて

堀江正知
(産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健管理学)

第100回日本産業衛生学会は、令和9年(2027年)5月26日(水)~29日(土)に北九州市で開催される予定です。会場は、JR小倉駅新幹線口から徒歩5分の北九州メッセ・北九州国際会議場等です。第1回大会は、昭和4年(1929年)に暉峻義等により倉敷で産業衛生協議会として開催されました。その後、名称変更や戦時中の中断、年2回開催の時期を経て、創設から99年目に第100回を迎えます。九州では2018年の熊本に続き11回目、北九州では2000年に続き27年ぶりの開催となります。正会員約9,500人の6割と想定すると、来場者数は約5,700人規模に達するものと見込まれます。開催まで約1年余りとなり、九州地方会として周知の準備を進めているところです。

メインテーマは、九州地方会の理事会で考案した次の3案に対して、昨年12月26日締切で会員投票を実施した結果、歴史を踏まえつつ未来への挑戦を示す主題として、案3が61.6%の支持を得て選定されました。

- 案1: 「人」と「働く」の新たな共生—包摂性・持続性の視点から—
- 案2: 産業衛生の知と実践—レジリエンスと共創の実践へ—
- 案3: 変わる職場、変わらぬ使命—産業衛生100回大会からの挑戦—

企画運営委員会は、筆者が委員長を務め、九州地方会理事の協力を得て組織します。業務別の運営は、江口尚(実行委員会)、宮内博幸・上野晋・中谷淳子・谷口奈央(プログラム委員会)、丸山崇(広報委員会)、井上彰臣(財務委員会)、大神明(大会担当本部理事)、永野千景(事務局)が担い、準備を進めています。

第100回の節目にふさわしい内容となるように、学会本部が掲げる「100周年を見据えたミッションと重点活動事項」や「学会の国際化」等の動向を踏まえながら、職業病の予防と就業適性の推進をめざす産業衛生学の分野で、わが国の専門家たちが約1世紀にわたり積み重ねられてきた成果を顧みて、将来を展望する機会にしたいと考えています。

4年に一度の日本医学会総会が同年4月に大阪で開催される翌月になりますが、全国から多数の会員の参集を期待しています。ご来場の皆様には、九州・沖縄の特色を体感いただける機会ともなるよう努め、関係者の連携促進と学術的交流のさらなる深化を図ります。懇親会は、令和9年5月27日(木)にリーガロイヤルホテル小倉で開催します。

現在、広報用に作成中のデザイン案を示します(図)。

期間中は、九州地方会会員の皆様に多方面にわたるご支援とご協力を賜りたく、お願い申し上げます。



第100回日本産業衛生学会広報用デザイン案

今村幸子保健師をしのんで

住 徳 松 子

(九州地方会産業保健看護部 会長)

2026年2月3日、長く九州電力でご活躍された今村幸子保健師がご逝去されました。今村保健師は昭和34年(1959年)に九州電力に入社され、その前年に発足した「事業所保健婦研究会」に三井三池炭鉱や九州電力の保健師とともに参加され、その後も昭和53年(1978年)、第1回日本産業衛生学会九州地方会産業看護研究会開催後に組織された「産業看護研究会」の活動に、世話人として尽力されました。平成3年(1991年)、日本産業衛生学会に産業看護部会が発足し、5年後の平成8年(1996年)に九州地方会産業看護部会が組織されてから平成12年(2000年)頃まで、部会役員として九州地方会の産業保健看護職の育成のために精力的に活動されました。九州電力をご定年後も関連会社で勤務されつつ、日本産業衛生学会や全国協議会ではいつもお姿を拝見しておりました。平成27年(2015年)に九州地方会80周年史の記念企画として産業保健師の先輩方の座談会を開催し、九州の産業保健看護の歴史を語っていただきましたが、長年産業保健師として活動されて得られた知見とそれでも尽きない学びへの意欲、当時80歳でしたがそ



今村保健師(前列右から3人目)と座談会参加者
80周年記念企画座談会にて(2015年11月21日撮影)

のエネルギッシュなお姿に圧倒される思いでした。他の先輩保健師と同様、今村保健師もお酒が大好きで学会の懇親会などで楽しんでいる姿も忘れられません。今村先輩の仕事と遊びの両立の姿勢は、我々世代以降も引き継いでいこうと思います。

心よりご冥福をお祈り申し上げます

九州地方会80年産業看護部会座談会:

<https://sanei-kyushu.com/kangobukai.pdf>

第2回産業衛生学会産業保健看護部会 学術集会を開催

栗 山 知 子

(産業医科大学 産業保健学部 産業・地域看護学)

第2回産業衛生学会産業保健看護部会学術集会が、2026年1月24日(土)に福岡市の大名カンファレンス(福岡大名ガーデンシティ内)にて開催されました。

今回は、2021年にコロナ禍でオンライン開催した第一回の集会以来の開催でしたが、福岡県内だけでなく東北地方からの参加者も含め、約130名の方に参加して頂きました。

住徳松子企画運営委員長(九州地方会産業保健看護部会長)のもと、本集会は、「産業保健看護活動の見える化と共有」をテーマとし、労働者への効果的な働きかけや組織的な健康施策を、参加者とともに探りました。また、産業保健看護職が専門性を高め、それを次世代へとつなげる場とすることも目指しました。

シンポジウムでは、「産業保健看護職の活用及び資質向上のために」というテーマで、産業医をはじめ産業保健看護職の育成等に関わっている4名の講演をもとに、複雑・多様化する近年の労働者の健康課題において産業保健看護職に求められる役割と、その期待に応えるための教育体系のあり方および実践能力について議論を深めました。

教育講演では、福岡歯科大学口腔医学研究センター教授の谷口奈央先生より、誰もが関心のある身近な問題である「口臭」をトピックとして取り上げて頂きました。口臭と労働に関連した実際の事例をふまえて、産業保健の現場での口腔衛生状態のアセスメントの視点や、職場で取り組める口臭予防の具体的方法など、口腔を入り口とした健康づくりのあり方を示して頂き、産業の場でこれまで見過ごされがちだった口腔環境へのアプローチの必要性とその可能性が共有されました。

また、本学術集会では、ワークショップも開催し「個別支援に必要なスキルと支援のポイント」、「企業における適正飲酒の進め方」という2つのテーマで各講師に事例、話題を提供して頂きました。参加者同士のディスカッションを通じて、産業保健看護職が直面する実態や課題とそれに対する働きかけの工夫等を共有、検討しました。理論と実践を結びつけることを目指した有意義な場を提供することができ、参加者からは、明日からの実践に活かせる知見が

得られたので、帰って社内の産業保健師と共有したい、という声が聞かれました。

一般演題では、企業や労働衛生機関で活動している全国の産業保健看護職や大学等で産業看護職の育成・研究を担う教員等から寄せられた事例報告、研究報告、質疑応答が行われました。中小企業の健康課題や医療職が不在の事業場に対する支援の実態も多く共有され、多角的な視点で産業保健活動を捉えること、そして産業保健スタッフに限らない横断的な連携が求められることを改めて実感しました。

本学術集会は、参加者同士の顔が互いに見える規模だったため、全員で同じ議論を共有できる一体感があり、会場のあちこちで参加者同士のコミュニケーションが図られている様子が印象的でした。誰もが発言をしやすいアットホームな雰囲気の中で、これからキャリアを積み重ねていくフレッシュな産業保健看護職にとっても、さまざまな視点や助言を得る機会となったようです。その点では、次世代への教育的な意義が感じられるとても温かな集会になったと感じます。この学術集会でのご縁をきっかけに、職場や世代、また職種を超えたさらなる産業看護、産業保健のネットワークの広がりにつながることを期待します。



ワークショップ
「個別支援に必要なスキルと支援のポイント」の会場内

研修会・学会の報告と予告

2025年度九州地方会学会開催報告

中村幸志

(琉球大学大学院医学研究科 公衆衛生学・疫学講座)

2025年度の九州地方会学会を11月7日(金)午後と8日(土)午前に沖縄産業支援センター(沖縄県那覇市)において開催いたしました。他県での開催と比べると変則的な日程となるために内容構成を慎重に検討しつつ参加状況を案じておりましたが、109名(沖縄県内45名、県外64名)の方々にご参加いただきました。前日までの沖縄ではようやく涼しくなってきたと感じていましたが、当日は暑いくらいの天候であり、県外からお越しの方々には驚かれていた様子でした。

参加者の交流を重視して、一般演題に2つのセッション(口演、ポスター)を用意したところ、それぞれに7演題ずつ、合計で14演題をご応募いただきました。さまざまな研究や実践活動などのご発表に対し、質疑応答や意見交換が活発に行われました。ポスター発表に合わせた交流タイムでは、皆様がお飲み物と沖縄のお菓子をお召し上がりながら和やかに歓談されていました。お土産の試食にもなったようにお見受けしました。

今回の学会では「労働者の健康づくりと健康管理を考える」というテーマを設定し、これに合う3つの講演を用意しました。7日(金)には、教育講演として江口尚先生(産業医科大学産業精神保健学研究室・教授、地方会長)に「新たな地方会運営の展望：地域の特性を活かした労働者の心身の健康増進のために地方会のできることを」お話しいただきました。最近の産業保健を取り巻く動き、九州地方の諸事情を踏まえた産業保健推進や本地方会発展のお考えなどを力説していただきました。8日(土)には、まず学会長講演として筆者が「職域における生活習慣病対策」をお話ししました。おまけのようにお話した沖縄の一労働者の所感に耳を傾けていただけにありがたかったです。次いで特別講演として高江洲義和先生(琉球大学精神病態医学講座・教授)に「労働者における睡眠の問題とその対処法」をお話しいただきました。多職種が集う本学会に相応しい最新の労働者の睡眠のさまざまな話題をわかりやすく説いていただきました。あくまで筆者個人の理解に基づく感想ですが、高江洲先生が「交替勤務によって深刻な睡眠障害を抱えた労働者には交替勤務を解くしかない」と言い切られていたのが最も印象に残っています。

学会の公式な催し物ではありませんが、自由集会として産業保健看護職交流会が開催されました。産業保健部会の皆様と沖縄県産業看護研究会の皆様が交流できてよかったですと聞き及びました。福岡県以外の各県では10数年に1回の開催が慣例のようですが、各県で開催する意義を感じました。

余談になりますが、7日(金)夕方に職場や久しぶりに会った仲間で街に繰り出されるお姿を拝見し、きっと楽しいひと時を過ごされたことでしょう。

最後に、筆者らによる手作りでの開催ゆえの不行き届きをお詫びしつつ、ご参加いただいた皆様、準備や当日運営にご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

2026年度九州地方会学会のご案内 (第2報)

宮内博幸

(産業医科大学 産業保健学部・学部長
作業環境計測制御学講座・教授)



時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。2026年度の九州地方会学会は、産業医科大学 産業保健学部 作業環境計測制御学講座と安全衛生マネジメントシステム学講座が主宰して開催します。過日に沖縄にて開催された2025年度の九州地方会学会の総会でご案内したとおり、以下のような形で

開催する準備を進めています。

- 日時 2026年10月24日(土) 午前・午後
- 場所北九州国際会議場
(福岡 県北九州市小倉北区浅野 3丁目9-30)
JR 小倉駅から徒歩5分
- プログラム構成の概要(進行順ではありません)

・学会長講演

宮内博幸(産業医科大学 産業保健学部 作業環境計測制御学講座)

・特別講演

堀江正知(産業医科大学 副学長)

- ・一般演題(口演)
- ・一般演題(ポスター)兼交流ティータイム
- ・総会
- ・自由集会

(懇親会は行いません。各自で北九州でのご滞在をお楽しみください。)

準備が整い次第、学会ホームページを立ち上げて、詳細なプログラム構成、参加登録および一般演題募集などをご案内する予定です。皆様と北九州でお会いできることを楽しみにしています。どうぞよろしくご依頼申し上げます。

理事会報告

2025年度 第2回九州地方会理事会

日時：2026年1月31日(土) 16:00~18:00

場所：TKP 博多駅前シティーセンター(オンライン併用によるハイブリッド開催)

議題：

- 1) 令和7(2025)年度第1回理事会議事録要旨について
- 2) 令和7(2025)年度事業・決算報告・会員数について
- 3) 令和8(2026)年度事業計画・予算案・会員数について
- 4) 第100回大会開催に向けた準備について
- 5) 令和9年(2027)年度地方会学会の開催について
- 6) 名誉会員、学会賞・奨励賞受賞者(2026年報告と2027年の依頼)について
- 7) その他

報告事項

- 1) 日本産業衛生学会本部関連報告
- 2) 令和7(2025)年度地方会学会(@沖縄)の開催後報告
- 3) 令和8(2026)年度地方会学会(@北九州)の準備状況報告
- 4) 令和8(2026)年度「研究会等」の開催予告
- 5) その他(産衛九州59巻準備状況など)

編 集 後 記

『産衛九州』第59号をご覧いただき、誠にありがとうございます。

今号は、長崎県選出理事である山下美和子氏（長崎産業保健総合支援センター）による「地方会理事として～産業保健看護職の立場から～」の巻頭言から始まり、新入会員の下村実紀氏、中金竜次氏、福重真美氏のご挨拶、さらに産業医部会、産業保健看護部会、産業歯科保健部会、産業衛生技術部会からの充実した活動報告など、盛りだくさんの内容となりました。

また、中村幸志先生による2025年度日本産業衛生学会九州地方会学会（2025年11月開催）の開催報告に加え、宮内博幸先生からは2026年度学会（2026年10月24日、北九州市開催）のご案内を掲載しております。会員寄稿としては、住徳松子氏による「今村幸子保健師をしのんで」、そして第100回大会企画運営委員長である堀江正知先生から「第100回大会に向けて」をご寄稿いただきました。

いよいよ、九州地方会にとっての一大イベントである第100回日本産業衛生学会の開催が来年に迫ってまいりました。大会テーマは「変わる職場、変わらぬ使命 —産業衛生100回大会からの挑戦—」に決定しました。本テーマの選考にあたっては、地方会員の皆様から多数のご投票をいただき、最も支持を集めた案が採択されました。変化の大きい時代にあっても、産業衛生の果たすべき役割を改めて見つめ直す機会となることが期待されます。

さらに、2026年度は2年に一度の選挙の年でもあります。今後、九州地方会では選挙管理委員会を立ち上げ、円滑な選挙実施に向けた準備を進めてまいります。学会運営を支える重要な節目として、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

地方会活動は、学会全体を支える土台です。本誌が会員相互の交流と学びをつなぐ場として、今後もその役割を果たしていくことを願っております。今後とも、会員の皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 2026年2月28日

編集責任者：江口 尚（産業医科大学）
編集委員：池上 和範（桜十字福岡病院）
彌富美奈子（株式会社 SUMCO）
大神 明（産業医科大学）
大森 久光（熊本大学）
垣内 紀亮（ダイハツ工業株式会社）
住徳 松子（アサヒビール株式会社）
田邊 綾子（宮崎大学）
中谷 淳子（産業医科大学）
中村 幸志（琉球大学）
堀内 正久（鹿児島大学）
堀江 正知（産業医科大学）
山下美和子（長崎産業保健総合支援センター）

(編集事務局連絡先)

〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号
産業医科大学産業生態科学研究所
産業精神保健学内
TEL(093)603-1611 FAX(093)692-5419
E-mail: sanei.kyushu.jimukyoku@gmail.com